

学校教育目標「笑顔いっぱい ともに輝く小山台」



小山台

学校だより
9月号
令和4年8月31日
横浜市立小山台小学校



自分の思いを伝えていくこと



校長 椎名哲也

スピーチコンテストの会場に向かうため、先日、発表者の6年生と一緒にタクシーに乗りました。久しぶりにタクシーに乗った私の頭の中には、「白いぼうし」のタクシー運転手 松井さんの姿が浮かびました。4年生の担任になる度に、「白いぼうし」に出会います。短編の物語が22集められた「車のいろは空のいろ」。その中の1つが「白いぼうし」です。「車のいろは空のいろ」を読んで感心させられた松井さんの“思いやり・優しさ”は、どんな所から生み出されるのかを知りたいと思い、15年ほど前に購入した「車のいろは空のいろ」をもう一度読み返してみました。“あとがき”の中に作者（あまんきみこさん）の生き方が書かれているを見つけました。キツネもタヌキも、熊でもチョウでも目的地までしっかり連れて行ってくれる松井さん。誰に対してもいつも親切に接してくれる松井さん。タクシーに乗ってくれたお客さんの誰もが幸せになってほしいと願っている松井さん。松井さんの“思いやり・優しさ”は、作者（あまんきみこさん）そのもので、今まで作者は、①身の回りのいろいろな人との出会いを大切にしていくこと ②自分の経験を前向きに今後に活かしていこうとすること を大切に生きてきたということが私に伝わってきました。ジェンダー平等に視点を置いての今回の6年生のスピーチと、松井さんの“思いやり・優しさ”に、私は共通点を感じました。自分の経験を身の回りの人たちの幸せにつなげていきたいという思いをのびのびと表現していた今回の6年生のスピーチを、私は誇らしく思いました。

自分の思いを相手に伝えていく方法はいろいろあります。時には文章にして、時には作品にして、時には声に出して、時には思いを同じにする仲間と手を取り合って…。松井さんのように相手の幸せを願って“思いやり・優しさ”いっぱいの行動をとることも、一つの方法だと思います。今後しばらくは感染拡大防止という大きな課題があり、学習活動への影響は続くことになると思いますが、学校の仲間みんなが幸せに学校生活を毎日送れるように、子どもたちが自ら考え、行動してほしいです。いろいろな方々から学んで自分の見方・考え方を磨くこと、そして、仲間と豊かにコミュニケーションを交わして協力し合うことが“自分の思いを伝える”ための大切なポイントです。今後の子どもたちの取組を、私も見守っていきます。

こや小ボランティア交流会



夏休み中の7月27日に「こや小ボランティア交流会」を開催しました。お世話になっている方々と教職員が一堂に会し、小山台小の子どもたちとの関わりや子どもたちへの思いを共有しました。たくさんの方々に支えられていることが、小山台小の子どもたち一人ひとりが輝くことにつながっていると改めて感じました。今後ともよろしくお願いいたします。

参加者【学校地域コーディネーター・防犯ボランティア・若竹会（登下校見守り）

学習ボランティア・お話ポケット（読み聞かせボランティア）・子どもの学びボランティア
特別支援教育支援員・PTA 役員・教職員】